

毎日新聞寄附講座 08 前期「ジャーナリズムの現在 I」

テーマ：国際報道を考える

## 第 1 回 「アフリカ」

～21 世紀初頭に取材したアフリカ大陸～

2008・4・15

城島徹・生活報道センター長

(元アフリカ特派員)

★取材で撮影した写真を示しながら説明します

### ▼紛争

10 年間も内戦が続いた西アフリカのシエラレオネでは、多数の市民が手足を切断された。日本人女性も難民支援の NGO スタッフ、チンパンジーの世話のボランティアなどで活躍。隣国リベリアは内戦で 15 万人が犠牲になり、数十万人が難民となった。27 年間の内戦が続いたアンゴラでは人口より多い 1300 万個の地雷が埋まり、復興への道のりは遠い。

### ▼奴隷貿易の「傷跡」

15 世紀から 19 世紀にかけて 1500 万人もの奴隷が「物」として運ばれた。病気や飢えで牢屋や船の中で死んだ者も多い。セネガル、ガンビア、ガーナなどで見た「傷跡」。

### ▼動物王国

ライオン、ゾウ、キリン……。ケニアにはサファリを楽しむ観光客が多い。だが、貧しくて水や電気のない家で暮らす人々もいる。アフリカの中でも安定国家だったが、最近の大統領選挙をめぐる混乱したことはアフリカの危うさを象徴している。

### ▼ビンラディンの旧居を探して

青ナイルと白ナイルが合流するスーダンの首都ハルツームはイスラム教のモスクが多い街だ。9・11 直後に聞いたビンラディンへの複雑な思いは、経済のグローバル化に残されたアフリカの人々の苦悩をうかがわせた。

### ▼多彩な顔を持つ南アフリカ

アパルトヘイト（人種隔離）政策は廃止されたが、心の中にある差別は消えない。27 年間の獄中体験を持つネルソン・マンデラ前大統領で知られる国は、世界最多のエイズウイルス感染者を抱える。美しい自然や観光都市ケープタウンで知られるこの国で 2010 年にサッカー W 杯が開かれる。

#### ▼アフリカのいろいろ

世界遺産の聖地があるエチオピアには国境紛争、貧困、飢餓、エイズなどの難問も。犠牲者 100 万人ともいわれる大虐殺があったルワンダ。サハラ砂漠に近い内陸国マリ。様々な国で見聞きしたファッション、環境、ケータイ、料理、音楽、子どもの笑顔……。

#### ▼青年海外協力隊

アフリカの国々には約 500 人の日本の若者が得意な技術を生かしてボランティアで働いている。先生や看護師、農業指導などに汗を流し、貧しい人たちを助けている。

#### ▼私たち、みんな同じ

信州のリンゴ農家に嫁いだタンザニア女性の差別体験を考える。海外が身近になり、外国人との多文化共生社会を構築に迫られるニッポン。足もとの国際化は――。

★身近な参考資料を挙げておきます。アフリカ開発会議（TICAD）が 5 月下旬、横浜で開かれ、夏にはサミットでアフリカに焦点が当たります。少しずつ勉強してみませんか。

#### 【文献】

- ◆「アフリカのいまを知ろう」（岩波ジュニア新書、山田肖子編著）。今春の新刊。政治、経済、文化などの専門家のインタビュー集。
- ◆「ルーツ」（社会思想社、現代教養文庫）。米作家アレックス・ヘイリーが西アフリカの奴隷の先祖をたどった著作。日本でもテレビドラマが放映され話題を呼んだ。
- ◆「新書アフリカ史」（講談社現代新書）。アフリカ各地域の歴史を記した文庫本。

#### 【映画】

- ◆「ブラッド・ダイヤモンド」。ダイヤモンドが紛争の資金源になった西アフリカ・シエラレオネの状況を参考にしている。主演はレオナルド・デカプリオ。
- ◆「ホテル・ルワンダ」。1994 年に大虐殺があったルワンダで、多くの非難民の命を救ったホテル支配人の実話をもとにした作品。日本で 2006 年公開された。
- ◆「遠い夜明け」。アパルトヘイト（人種隔離）政策に異を唱えた黒人活動家の拷問死を描いたノンフィクションが原作で、主演はデンゼル・ワシントン。

※こうした興行的要素の濃い作品のほか、アフリカの視点から独自に製作した作品など、アフリカ関係の映画祭などで観るチャンスがあります。